

留学生の就職についてのアンケート

アジア文化学科3年 山 口 千 恵

九州地区国際学生会議で、外国人留学生たちに就職についてアンケート調査をした。女性の留学生に、就労上の差別がないかどうかについて聞いたところ、「管理職が少ない」、「同じくらいの能力で同じ会社に就いても、仕事内容が男と女で全く違うので、仕事に対する意欲を失ってしまう」、「営業などの仕事は特に、女性は男性の三倍くらい働いて成果を挙げなければ認められない」など、女性に対する職場環境の悪さに不満を持つ声が目立った。

外国での就職に関しては、男女双方に不満があるようだ。会社の方針・概要などが記載された資料やホームページの文章が難しく、各会社の業務内容が理解できない（つまり会社側が、外国人に分かりやすく会社の情報を公開する努力をしていない）ことで困っているという声もあった。また、面接において、日本語で自分の意見を主張しても、やはり日本人より上手く伝わりにくいために不利になってしまふことに、納得がいかないという学生も数名いた。さらに、言語のニュアンスの問題（どこまではっきり言っていいのか分からない）や、宗教上の問題、異文化に理解のない上司に当たった場合に生じる問題などが就職先で起こる可能性があることに、ほとんどの留学生が不安を感じているということが分かった。

次に、男子学生のみに、「結婚したら相手の女性に専業主婦になってほしいか、それとも仕事を続けても構わないか」と質問してみると、「結婚したら相手の意思を尊重することも必要なので、相手が仕事を続けたいというなら続けてもいいが、出来れば専業主婦でいてほしい気持ちもある」と、家事に専念してくれることを望みつつも、女性の働く権利に対して理解を示す返答が返ってきた。

また、卒業後は、日本・母国・海外のうち、どこで就職する予定かという質問に関しては、「日本で就職しようと思っている」と答えた人がほとんどだった。その中には、「母国の就職率が悪すぎて就職口がない」という現実のために、日本での就職を望む学生もいた。

さらに、日本の学生の就職活動をみてどのように思うか聞いてみたところ、「すごく頑張っていると思う」と答えた人は極少数で、後は、「よく分からない」、「普段から自己主張が足りない。それが面接時によく表れている」、「仕方なくやっているように見える」、「自分がどういう仕事につくかという大事なことに関して、無関心」、「『大学まで進学して、就職』という枠に収まりきった考え方をする人が多い。個人にあったやり方を個人で考えて行動することが必要だと思う」など、余り好印象でない回答が目立った。



班ごとの報告の様子